

SPARC Enterprise M3000 サーバ

はじめにお読みください

重要な情報とマニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M3000 サーバを設置する前に、本製品に関連するファームウェアやソフトウェアのパッチ、既知の問題などに関する最新の情報を確認してください。これらの情報は、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ プロダクトノート』に記載されており、他のマニュアルに記載されている情報よりも優先されます。『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ プロダクトノート』、『SPARC Enterprise M3000 サーバ インストレーションガイド』、およびその他のマニュアルの最新版は、以下のウェブサイトに掲載されています。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

SPARC Enterprise M3000 サーバのドキュメント

システム計画と 設置準備

- SPARC Enterprise M3000 サーバ 製品概要
- SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画マニュアル
- SPARC Enterprise 19 インチラック搭載ガイド

システムの インストール

- SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ プロダクトノート
 - SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 Servers Important Legal and Safety Information (製品添付)
 - SPARC Enterprise M3000 サーバ 安全に使用していただくために
 - SPARC Enterprise M3000 サーバ はじめにお読みください (本書)
 - SPARC Enterprise M3000 サーバ インストレーションガイド
 - SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ アドミニストレーションガイド
 - SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド
-

管理	<ul style="list-style-type: none"> • SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ プロダクトノート • SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ アドミニストレーションガイド • SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド • SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル
修理とトラブルシューティング	<ul style="list-style-type: none"> • SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル • SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ アドミニストレーションガイド
グローバル化	SPARC Enterprise M3000 サーバの各国語版ドキュメントが以下のウェブサイトを提供されます。 http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/

注 – M3000 サーバには、AC 入力電源モデルと DC 入力電源モデルがあります。各マニュアルの本文は、AC 入力電源モデルに基づいて記載されています。DC 入力電源モデル固有の情報がある場合は、各マニュアルの付録に記載されています。DC 入力電源モデルをご使用の場合は、必ず各マニュアルの付録「DC 入力電源モデル」を参照してください。

SPARC Enterprise M3000 サーバのセットアップ手順

M3000 サーバのインストールおよび設定手順を簡単に説明します。詳細は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ インストールガイド』を参照してください。

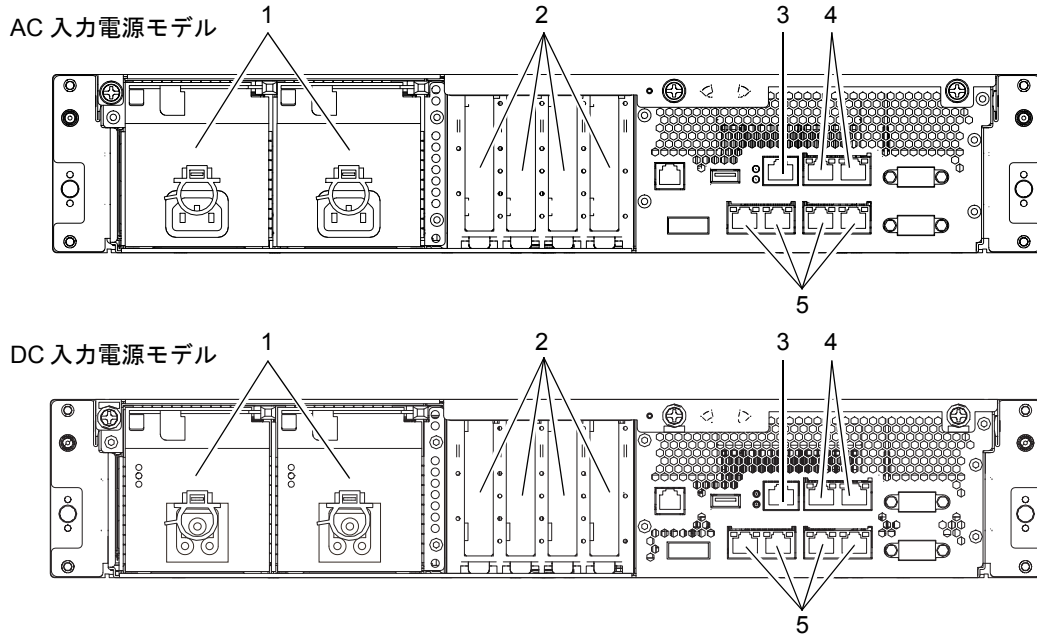
1. **電源、空調、および設置場所の要件を確認します。**
ご使用の入力電源モデルに応じて、適切な電源設備を用意してください。詳細は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ 設置計画マニュアル』を参照してください。
2. **本体装置の設置に必要な用品を準備します。**
3. **本体装置に添付されている添付品明細書に照らして、納入品を確認します。**
4. **19 インチラックを設置し、M3000 サーバを搭載します。**
詳細は、『SPARC Enterprise 19 インチラック搭載ガイド』を参照してください。



注意 – 電源コードを入力電源に接続する前に、入力電源のサーキットブレーカーがオフになっていることを確認してください。

5. **本体装置背面の電源ユニットに電源コードを接続します。**
電源コードが、電源ユニットのコードクランプで固定されていることを確認してください。
6. **電源コードを入力電源に接続します。**
入力電源モデルによって、電源コードの接続方法が異なります。詳細は、『SPARC Enterprise M3000 サーバ インストールガイド』を参照してください。
 - AC 入力電源モデルの場合
AC 入力電源モデルの M3000 サーバは、接地タイプ（三線式）電源コードが 2 本添付されています。必ず電源コードを接地極付き電源コンセントに接続してください。
 - DC 入力電源モデルの場合
DC 入力電源モデルの M3000 サーバは、DC 電源コードが 2 本添付されています。この DC 電源コードは、本体接続側しかコネクタが取り付けられていないため、DC 供給電源側には設備にあった端子を取り付けてください。また、DC 供給電源設備は正しく接地されている必要があります。

図1 本体装置の背面パネル



位置番号	名称
1	電源ユニット
2	PCIe スロット
3	シリアルポート (XSCF 用)
4	LAN ポート (XSCF 用)
5	Gigabit Ethernet (GbE) ポート (OS 用)

7. 本体装置添付のアクセサリキットに含まれている RS232C ケーブル (シリアルケーブル、RJ45-DB9) を使用し、本体装置背面のシリアルポート (図1の3) に管理コンソールを接続します。
 管理コンソールとして使用できる端末は、DB-9シリアルポートを備えている以下の端末です。
- ASCII 端末・ワークステーション・ターミナルサーバ (または、ターミナルサーバに接続されたパッチパネル)・パーソナルコンピュータ



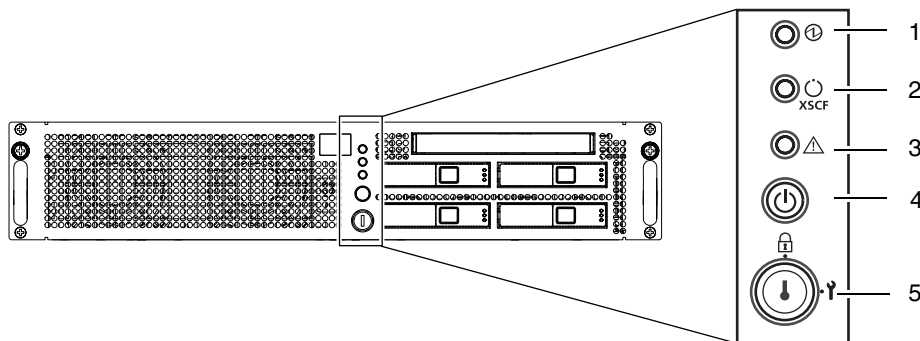
注意 - シリアルポートに誤って LAN ケーブルを接続しないよう注意してください。

8. 以下の手順に従って、XSCF シェルにログインし、XSCF の初期設定を行います。

XSCF は、本体装置の設定や管理を行うためのシステム監視機構です。XSCF の初期設定を行うには、XSCF のデフォルトのユーザーアカウントを使用します。

- a. 本体装置前面にあるオペレーターパネルのモードスイッチを Service モード (Y) に合わせます。
モードスイッチのキーは、本体装置に添付されています。

図2 オペレーターパネル



位置番号	名称
1	POWER LED
2	XSCF STANDBY LED
3	CHECK LED
4	電源ボタン
5	モードスイッチ (キースイッチ)

- b. 入力電源のサーキットブレーカーをオンにします。

入力電源を投入すると、XSCF が初期化されます。初期化には約 5 分かかります。初期化が完了すると、オペレーターパネルの XSCF STANDBY LED (XSCF) が点灯します。

- c. XSCF の初期化が完了したら、ログインプロンプトで **default** と入力します。

```
login: default
```

- d. モードスイッチの変更を指示するメッセージに従って、モードスイッチを 1 分以内に操作します。
1 分を過ぎると、ログイン認証がタイムアウトになります。

```
Change the panel mode switch to Locked and press return...  
Leave it in that position for at least 5 seconds.  
Change the panel mode switch to Service, and press return...
```

- e. 管理コンソールに XSCF シェルプロンプトが表示されることを確認します。

```
XSCF>
```

f. XSCF の初期設定を行います。以下の設定は必須です。


設定項目	コマンド
XSCF のユーザーアカウント、パスワード、ユーザー権限の登録 FE (保守作業) のユーザーアカウントの登録 (保守用)	<code>adduser, password, setprivileges</code>
日付、時刻設定	<code>setdate, settimezone</code>
XSCF ホスト公開鍵の確認	<code>showssh</code>
SSH/telnet 設定	<code>setssh, settelnet</code>
ネットワークインターフェース、ルーティング、DNS 関連の設定 (*1)	<code>setnetwork, setroute,</code> <code>setnameserver</code> など
ドメイン / サービスプロセッサ間通信プロトコル (DSCP) の設定 (*2)	<code>setdscp</code>
高度設定 (*3)	<code>setaltitude</code>
二系統受電の設定	<code>setdualpowerfeed</code>

- *1: 設定した内容を反映させるには、`applynetwork` コマンドと `rebootxscf` コマンドを使用して、XSCF をリセットする必要があります。
- *2: 設定した内容を反映させるには、`rebootxscf` コマンドを使用して、XSCF をリセットする必要があります。
- *3: `setdualpowerfeed` による変更内容を適用するには、本体装置の電源再投入を完了 (すべての電源コードを取り外して電源切断後、再投入) する必要があります。本体装置に電源コードを再接続する前に、必ず 30 秒以上待機してください。

設定方法の詳細は、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド』を参照してください。




g. 手順 f で設定したユーザーアカウントおよびパスワードを使用して、XSCF シェルにログインします。

9. 以下の手順に従って、本体装置に電源を投入します。

- a. オペレーターパネルのモードスイッチが Service モード () になっていることを確認します。
- b. XSCF シェルから `console` コマンドを入力します。

```
XSCF> console -d 0
Connect to DomainID 0?[y|n] :y
```

この操作により、XSCF シェルからドメインコンソールに切り替わります。

- c. オペレーターパネルの XSCF STANDBY LED () が点灯していることを確認します。
- d. オペレーターパネルの電源ボタン () を押して、本体装置の電源を投入します。
本体装置が起動し、自己診断を開始します。起動中、管理コンソールにエラーメッセージが表示されないことを確認してください。
- e. オペレーターパネルの POWER LED () が点灯していることを確認します。

- f. ドメインコンソールに **ok** プロンプトが表示されていることを確認します。
ok プロンプトは自己診断完了後に表示されます。
- g. **Enter** キーを押し、"**#**" と "**."** (ピリオド) キーを入力します。
この操作により、ドメインコンソールから XSCF シェルに切り替わります。
- h. XSCF シェルから **fmdump** コマンドまたは **showlogs** コマンドを実行し、エラーが検出されていないことを確認します。
10. イーサネットケーブルを使用し、システム制御ネットワークを本体装置背面の LAN ポート (図 1 の 4) に接続します。
システム制御ネットワークとは、XSCF をシステム管理者用の管理コンソールに接続するためのネットワークです。この接続により、管理コンソールとシリアルポートの間の一時的接続は置き換えられます。
LAN ポートは、IEEE 802.3i と IEEE 802.3u に準拠しています。ただし、ネゴシエーションはオートネゴシエーションモードのみです。固定モードは使用できません。
11. システム制御ネットワークに接続された管理コンソールから、以下のコマンドを使用してハードウェア構成を確認します。

コマンド	プロンプト	概要
<code>showhardconf</code>	XSCF シェル	本体装置に搭載されているすべてのコンポーネントとその状態が表示されます。各 FRU の前にアスタリスク (*) が表示されていないことを確認します。
<code>showhardconf -u</code>	XSCF シェル	搭載されている FRU の個数が表示されます。本体装置に添付されている成績書を参照し内容を確認します。
<code>probe-scsi-all</code>	ok プロンプト	搭載されている CD-RW/DVD-RW ドライブユニットおよびハードディスクドライブが認識されていることを確認します。
<code>show-devs</code>	ok プロンプト	搭載されている PCIe カードが認識されていることを確認します。

XSCF シェルから ok プロンプトに切り替える場合は `console -d 0` コマンドを入力します。ok プロンプトから XSCF シェルに切り替える場合は、**Enter** キーを押してから、"**#**" と "**."** (ピリオド) キーを入力します。

12. 本体装置に他のハードウェアや周辺機器を取り付けます。取り付けない場合は、手順 13 に進みます。
増設メモリや PCIe カードなどのオプション品の追加方法については、『SPARC Enterprise M3000 サーバ サービスマニュアル』を参照してください。また、ストレージ製品やその他の周辺装置を追加する場合は、各装置に添付のマニュアルを参照してください。
13. 以下の手順に従って、ドメインをユーザーネットワークに接続します。ドメインをネットワークから分離する場合は手順 14 に進みます。
ユーザーネットワークとは、ユーザーがドメインへアクセスするためのネットワークです。
- a. イーサネットケーブルの一方を、背面パネルの GbE ポート (OS 用) (図 1 の 5) に接続します。
イーサネットケーブルは、GbE ポート (OS 用) または PCIe スロットに取り付けられた LAN カードの LAN ポートに接続できます (図 1 の 2)。
- b. イーサネットケーブルのもう一方を、ユーザーのネットワーク環境に接続します。

14. 以下の手順に従って、Oracle Solaris オペレーティングシステムを起動します。

Oracle Solaris OS は、スロット 0 のハードディスクドライブにプレインストールされています。

a. ドメインコンソールの ok プロンプトから、boot コマンドを実行します。

```
ok boot
```

b. ログインプロンプトが表示されたら、root 権限でログインします。

15. Oracle VTS ソフトウェアを使用してハードウェアの動作やデバイスの接続状態を確認します。

Oracle VTS ソフトウェアは、Oracle Solaris OS に含まれます。詳細は、『Oracle VTS User's Guide』を参照してください。

16. ドメインの初期設定を行います。

詳細は、『SPARC Enterprise M3000/M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ アドミニストレーションガイド』を参照してください。

マニュアルへのフィードバック

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記ウェブサイトの『お問い合わせ』から送付してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/sparcenterprise/manual/>

Copyright © 2007, 2012 富士通株式会社 All rights reserved.

本書には、オラクル社および/またはその関連会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

富士通株式会社

マニュアル番号 : C120-E536-04

2012年3月, Revision A